



11月号 令和2年10月30日発行

# 荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [Tel.911-0149]  
[http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



## 新しい学校の生活様式の中で一人ひとりができることをがんばった荏田っ子スポーツフェスタ

校長 伊藤 智樹

秋晴れのもと10月18日(日)に荏田っ子スポーツフェスタ(荏田スポ)を開催することができました。今年度は例年とは違い、新しい学校の生活様式にもとづいた種目となり、名称も競技的要素のある運動会から体育学習の成果を発表する場の意味を込めてスポーツフェスタに名称変更とさせていただきました。子どもたちの見学場所も椅子と椅子の間隔を広げたり、走った後の呼気管理のため子どもたちが席に戻るまでの通路を広めに確保したりしました。また種目の合間に手洗いタイムを適時とったり、保護者参観人数を制限したりするなど運営面に関しても例年とは違う対応でした。このような状況下においてスポーツフェスタを開催できたのは保護者・地域の皆様のご理解とご協力の賜と思えます。学校における教育活動は、教職員と地域・保護者が協働して創り上げていくものと今回のスポーツフェスタを通じて実感しました。本当にありがとうございました。



今年度は、計画当初から次の3つの観点から荏田スポを進めてきました。

- ① 9月の熱中症対策
- ② 感染拡大予防の点からの開閉会式や種目の見直し
- ③ 通常授業時間確保の観点から荏田スポに向けた練習時間および指導内容の厳選

例年より演技練習は少ない時間で計画していたので、当初どのくらい完成していくのか心配する面もありましたが、むしろ子どもたちの集中力が高まり完成度も昨年度と遜色ないものでした。結果少ない時間で実施することができました。

荏田スポに関するアンケートもお忙しい中ありがとうございました。頂いたご意見をもとに今回の荏田スポを検証していくとともに次年度以降の運動会について検討していく資料とさせていただきます。



2年ほど前に『学校の「当たり前」をやめた。』という本が発刊され、その内容が注目を浴びました。詳しい紹介は紙面に限りがありますのでできませんが、コロナ禍の今だからこそ今まで当然のように行われてきた教育活動を一度立ち止まって見直すことも良いのではと考えます。

コロナ禍では、これまでの学校が『当たり前』としてきたことが通用しないことが多く、1つの行事の実施だけでも様々なケースを考慮に入れた検討や準備が必要となっています。その一方で今までの学校の『当たり前』を見直したり変更したりするきっかけになっているとも言えます。感染拡大防止の面で例年通りの活動ができな中、なんとか実施したい(できる)行事については、その意義が論議されています。

余談ですが『長い間日本の学校は、黒板とチョークで授業をしてきた。』と指摘されることがあります。これも『学校の当たり前』とも言えます。今GIGAスクール構想でタブレットの環境整備が進む中、学校の当たり前も見直すことになるかと思えます。その意味で今回の荏田スポは「運動会とは何のためにあるのか」を私たち教職員に問いかけていると思います。

8月号の学校だよりの中で副校長が『教育活動は不易と流行のバランスが大切である』と述べました。教職員一同、保護者や地域の皆様と連携しながら荏田っ子のために、伝統と新しく導入される内容のバランスをとりながら様々な教育活動に取り組んでいきたいと思えます。

最後に荏田スポ終了後に嬉しい場面を目にしましたので紹介いたします。

私は、荏田スポ後に「さすが6年生！」と思う光景を目にしました。それは、6年生が下校前に階段や廊下を自主的に笑いながら楽しそうにホウキで掃除をしていたことです。今回は椅子を持ちながら下履きのままで校舎内に入ったので通常より土が目立ちました。それを見ての行動だったのでしょうか。一人の行動が徐々に増え何人もの6年生が土を掃いてくれました。